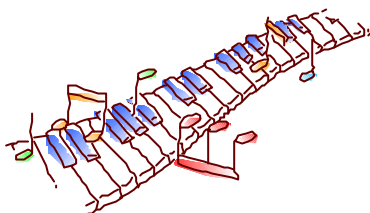


# トコトワ新聞 ~ サイワイムラの村人だより ~

【第10号】

## アマテラス支援コーラス隊再結成！ ~ 上級編 ~



あの、アマテラス支援コーラス隊がパワーアップして再結成？  
今回は、ノリトをもう一度基本から学び直し、更に真のマスラオ・  
タラヤメの心をカタを通して思い出し？自分自身から湧き出る  
ノリト・舞いそして祈り・・・

10月6・7日に2回目を開催します。初参加の方も是非！！

コスモポート



乾期が終わろうとしているワゴリには、強い風が吹いていた。硬い赤土の広大な敷地に、たくさんの棘だけを残した黒い枯れ木のようなアカシアの低木以外に色らしいものは見つけられず、それは趣の無い風景ではあった。それまで、空と海と花を求めて旅をしてきた私は、このような土地と関わるすべを知らず、日常から離れ、起こる事全てに自分がどのように対峙するのかわからない思いで一人が旅ではあつたけれど、すでに戸惑い前途に暗澹とした思いになっていた。

夕方、あいかわらずの強風の中を小高い丘の上の東屋のように見える建物に向かって散歩に出かけた。アカシアの苗木の棘にひっかけて傷つかなないように、注意深く足元をみながら歩いていると、からからに乾いた赤土の上に、パフィオペジラムによく似た植物があちこちに小さな葉を出しているのを見つけた。高温の乾期の間、命をつなげようと地面にへばりつく様に生きたパフィオペジラム物（もしかしたらアナナスだったかみしれない。）いとおしくなったらアナスだっただかみしれない。撫でた。

後数日の間に降った雨は、木々の葉を茂らせ、高原は草原になつていった。梢の鳥たちは誇らしげに命の歓びの中にそれぞれのウタを歌い、とてもにぎやか。痩せていたウサギも草むらの中で確かに太りだしていた。突然雨がやみ顔を出したアスカに照らされて青空を背景に輝きゆれる木々の緑の美しいこと。まるで音のない音楽のよう。犬は犬の命を生き、人は人のいのちを。あるがままに媚びへつらうことなく生きていた。

はこのワゴリで、乾期から雨期を経験して、再び生まれる「事を生きたのかもしれない。面白くも味わいも無いように思えたものが、濃密なアイをみせてくれた。まるで人生の今そのもののように。

### 9月のある日 廣田 怜意

いつもよりおめかしして、一家で元気に友人の音楽の発表会にお出かけした。ところが、バスの中でインフォメーションに目をやるや、「ハッ！」私はまたまた、オバカ事をしてしまった。PM 4:00~のつもりが、なんと14:00スタートとなっているではないか。現地に急いでも...まず、友人の顔が目に見えだ！家族の視線も怖い！...家族は、「またか！」という反応。そう、私には、こんな出来事が数回じゃすまされない。でも、この日ばかりは、冷蔵庫の角に頭をぶついたり、滑って転んだり、と踏んだり蹴ったり、かなり落ち込んでしまった。この些細な事をきっかけに、今まで抑圧していた否定的感情がズルズルとイモズル式に出てくるのである。こんな時、ふっと優しい言葉などがかけられてしまったら、もう涙が止まらない。なんて、単純な私！そして、自分が、何故落ち込んでいるか、何を不満に感じているのか、書き出してみた。・・・大した事じゃないじゃないか！そうそう、タモさんがよくおっしゃている。『『映画の中の自分』に引き込まれていた自分』に気づいた！！少し、落ち着く。「アー、スッキリした。！！」

古の 久遠の果てより 風フキヌ

赤土に立ち マハラジとひとり

コスミックライフデザイナーパイロット

北井かずみ（神奈川県）



## ワンダフルトトロ

先日、近くで有機野菜を生産している農家・酒井さんの稲刈りをお手伝いに行きました。千葉県栗源町の林の中を分け入った奥まったところにある、隠れ里のような田んぼです。水源に近い上流の方があるので、水もキレイです。

「蛍もきれいだよ。」と酒井さん。緑色が輝くようにまぶしい、大きなオニヤンマを見て、思わず「わあ、きれいだ！」と声を上げてしまったほどでした。

春に田植えをお手伝いして、久しぶりに目にした稲は、思ったより背が高く、黄金色の穂を垂れていました。朝の太陽を浴びて、とても輝いて見えました。

ここは水の深い田んぼで、うまく機械が動かず、酒井さんは手刈りでスタートされてきました。私は、それをわらひもで丸つて行きました。

酒井さんは、野菜をずっと育ててこられていますが、やはり大切な主食の米を育ててみたいという想いがあったようです。2年間、おかもち米を畑で作りましたが、とうとう今年初めて田んぼでの米作りをスタートされたのでした。

酒井さんを観ていると、例え一人であっても、いつまでかかろうとも、「最後まで獲る」という覚悟がアリアリと見受けられました。かといって、がむしやらにしゃかりきになって、慌ただしくやっているのではありません。悠々と静かに、雄々しく、リンとして清々と進んでいる姿は、とても美しいものでした。

「うん。いいマストラオぶりだよね！」と思わず一人で、ニンマリ。

全く静かな空間、セミの声がよくヒビク中で、この静けさを十分に味わいながら、黙々と作業を続けました。

「稲を、どうして『コメ』と呼び換えるか知ってる？」と私。

「さあ、どうしてなんだろうね。」  
「コメって光の芽という漢字も当てられるよね。」

きつと生命ある食べ物全て、食べて消化されると光の芽になって私たちを輝かせてくれるんだと思うんだ。その中でも、光芽なりやすい食物だから、イニシエのヤマトの民は、稲の種子をコメと呼んだんだと思うなあ。他の野菜と違って特別な仕立て方で栽培する事も、きつと光芽のエネルギーを高める方法なんだろうね。

岡田多母さんから、ヤマトコトバのヒビキについて学んでいるので、こんなふうになって、自然に想えるんだ。検証することはできないけど、私の内側で確信が持てるから、きつとそうなのかなっておもえるんだよね。」

優雅なマストラオの姿を観ながら、ただ静かに作業が続いていきました。静かな田んぼの風景にそのまま透けこんでいた一瞬間の連続。大地を直接感じ、テラを感じ、すっかり幸せに満たされた、楽しいトキでした。

そして、「添う」というサポートすることを体感し、実感することができました。相手をしっかりと感じ、しっかりと観ていけば、自然に相手に添うということが起こりました。ありがたいことに気づかせていただいた酒井さんに、深く感謝いたします。

大したお手伝いにはなりませんでしたが、できることを一生懸命やらせていただきました。我が家の主人も、酒井さんにはホレこんでいるし、娘は「とうちゃん」と呼ぶほどで、我が家の大ヒーローなものでした。

もし、酒井さんの畑を訪れて、大地と直接ふれあい感じ合いたいと思う方がいらつしやいましたら、遊びにいらつしやいませんか？酒井さんもそういう方を歓迎してくださいませし、私も喜んでご案内したいと思います。



ハーモニールーム・ホケサミ  
加瀬 恵の実(千葉県)

# 村人募集中！！

あなたも、サイワイ村の村人になりませんか？

「トコトワ新聞」では、みなさんのアンナコト、コンナコト、一言メッセージ

宇誕・・・etc待っています。

〒368-0041 埼玉県秩父市番場町15-5

TEL 0494-25-1308 FAX 0494-25-1309

E-メール mmh3634@chichibu.ne.jp

ホームページ www.chichibu.ne.jp/~mmh3634/

